

令和6年1月5日

南の風新春特集号Ⅲ

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

前号に続けます。今回でまとめます。

人間は相手になんら責任を取らなくてもよいときであれば、いくらでもやさしい言葉を並べるし、裏付けもなく楽観的観測を述べたりもします。それで相手が変な方向にのぼせ上がってしまおうが、現状に満足して停滞してしまおうが、極言すれば「知ったことでない」のです。

SNSでも「イヤなことから逃げたらいいい」、「つらいことは拒否すればいい」、「面倒くさい他人は切ればいい」といった、やさしい言説を発信する人ほど多くの支持や共感を集めているのを目にします。「しんどいけれど大切なこと」をSNSで言っても支持されないし、むしろ嫌われたり「おまえに何が分かる」と憎まれたりして、石を投げられることさえよくあります。そう考えれば「**無責任なやさしさ**」を発信する方がよほどコスパはいいのです。

今の世の中は「厳しい大人」は希少財です。なぜなら責任を負うからこそその厳しさであるからです。（念のために言いますが、ただ横暴に振る舞いたいだけの人を「厳しい大人」とは言いませんし、区別も容易に可能です）

本当に残念なことです。今の若い人が「厳しい大人」に出会える確率はものすごい勢いで低下していると言わざるを得ません。出会えたとしたら本当にラッキーです。それが人生を変える出会いになる可能性は大いにあるからです。苦勞も多いし、自分の自由な時間も減ってしまうかもしれないが、絶対にその人を手放すべきではありません。

————— だれもが「一人二役」を求められる時代 —————

繰り返しになりますがイチロー氏が述べるように、今の時代は若い人にとっては快適ではあるかもしれませんが、しかし同時に「酷な時代」になったと思います。

世の中には、これまでの時代にはなかったような新しい仕事や、創造的な仕事が増えましたし、マクロな労働市場も良くなってきていることは確かなのですが、若者たちは「**がむしゃらに努力する自分**」と、「**自分を厳しく指導する自分**」というように、さながらプレーヤーと監督を一人二役でこなさなければ、この時代の持つポジティブな方向の流れには決して乗っていきません。

ひと昔前までは「プレーヤーとしての自分」という一つの役割だけに集中すればそれでよかったのです。「自分を厳しく監督・指導する役」は別の方がやってくれていました。しかし現在はそうではありません。自己管理能力が低い人にとっては、たとえ個人として持つ能力やポテンシャルが高かろうが、「いい流れ」には中々乗れません。ハードな時代の幕開けなのです。

これからの時代、「厳しい大人」の役割を務められる人にとっては、ひと昔前では考えられないチャンスが広がるでしょう。しかしそのようなロールプレイができないタイプの人にとっては、これまでと大して変わらない閉塞した世界が広がっているようにしか見えません。両者の世界はお互いの姿が見えないほど遠ざかって二極分化していくのではないのでしょうか。そしてこのことは当然、我々バスケットボールの世界にもビックウェーブとして押し寄せてきているのです。